

## 第2回木材利用に係る環境貢献度の「見える化」検討会の概要について

1 日 時 平成20年10月30日（木）14：00～16：00

2 場 所 農林水産省共用第10会議室

### 3 議 事

- ・ 「見える化」に当たっての具体的な評価方法と評価範囲について
- ・ 「見える化」に対応するために必要なデータについて
- ・ 製造時CO<sub>2</sub>排出量の貯蔵からの控除について

### 4 出席者の主な発言内容

- 「見える化」に当たっての具体的な評価方法と評価範囲について
  - ・ 人工林の場合、手入れするほど環境負荷が高くなる。人工林材の利用を推進する観点から、手入れの結果排出されたCO<sub>2</sub>量はカウントせず、人工林に関しては、土場からのカウントとしてはどうか。
  - ・ 鉄や石油製品から製造された部材は、原料調達時の環境負荷から廃棄までのデータが全て入っており、木材だけを特別扱いすることは避けるべき。
  - ・ モデルはシンプルにするべき。
  - ・ 木材・木製品は電気製品等と違って、使用中の環境負荷はほぼゼロという特徴がある。
  - ・ 木材製品のリサイクルを促進するために、バージン材料調達時や廃棄時等のCO<sub>2</sub>排出量の按分方法を工夫するべき。
- 「見える化」に対応するために必要なデータについて
  - ・ 全ての製品の調査はできないので、我が国で使用量の大きい部材や原材料から調査すべき。
  - ・ 間伐貢献度は面積で表記されているが、金額を用いた表現が分かりやすいのではないか。
- 製造時CO<sub>2</sub>排出量の貯蔵からの控除について
  - ・ 製造時のCO<sub>2</sub>排出と同時に木材を使用することによるCO<sub>2</sub>の貯蔵がある場合であっても、排出量から貯蔵量を差し引いて表示するのは適当ではなく、排出量と貯蔵量の比較にとどめるべき。
  - ・ 製造時CO<sub>2</sub>排出量を貯蔵から控除した数値をもって炭素貯蔵量とした場合、廃棄段階で製造時のCO<sub>2</sub>排出量がカウントされなくなる。
  - ・ 創意工夫により、消費者に分かりやすい表現を提供するとの観点から、製造時CO<sub>2</sub>排出量と貯蔵を関連づけて表示する方法もあるのではないか。